

# 平成28年熊本地震「徳島県教育支援チーム」活動報告会

平成28年7月22日（金）[教育会館] 13:30~16:00

徳島県教育委員会では、この度の熊本地震の被災地支援として、4月29日から5月31日までの期間、9陣合計27名を益城町に派遣しました。支援活動に従事した教員の実体験に基づく活動内容を広く県内各校に伝えることが、現場で求められる教育支援のあり方の理解や、各学校の災害対応能力向上につながり、ひいては、学校防災管理の充実に結びつくと考え、報告会を開催しました。この報告会には、県内ほぼ全ての公立学校より350名が参加しました。以下に報告会の概要をお知らせします。



開会にあたり挨拶する  
美馬教育長

## 活動報告 1

徳島県教育支援チーム（第1陣）  
体育学校安全課 班長 蔭岡弘知 氏



第9陣まで展開した「徳島県教育支援チーム」の第1陣として、必要とされている支援は何かを見つけることを使命として派遣された。

- ・被災直後の現地の様子
- ・「応急的な避難所運営」から「本格的な避難所運営」への移行に課題
- ・「学校再開」へのハードル
- ・通学路の安全確保が非常に大きな課題
- ・広安西小学校支援を決定



## 活動報告 2

徳島県教育支援チーム（第6陣）  
助任小学校 教頭 濱條信彦 氏



学校再開後、「避難所機能」と「学校機能」が同居している状況で派遣された。主な支援活動は次のとおり。

- ・登校時の通学路での立哨指導
- ・低学年（2年生）の各学級のT2としての授業サポート
- ・特別支援学級での児童の見守り
- ・健康診断の補助
- ・簡易給食について



## 活動報告 3

兵庫県震災・学校支援チーム  
兵庫県立芦屋高等学校  
主幹教諭 浅堀 裕 氏



阪神・淡路大震災以降、平時には研修会講師派遣や人材育成を行い、災害時には被災地派遣を継続している組織の一員として活動。熊本地震では先遣隊（4月16日から）第5次（7月1日）まで支援を継続した。主な支援内容は次の通り。

- ・先遣隊 現地の視察と、今後の活動計画
- ・第一次派遣 避難所運営の自治組織への移行、学校再開に向けての助言
- ・第二次派遣 学校再開に向けた具体的取組の助言
- ・第三次派遣 教職員の心のケア研修（子どもたちのための）実施
- ・第四次派遣 保護者向けの心のケア研修の実施
- ・第五次派遣 心のケアの授業の実施

## パネルディスカッション

### テーマ

## 被災時の学校再開に向けた課題について



コーディネーター：中野 晋 氏  
(徳島大学大学院理工学研究部 教授)

現在、大学で教鞭を執る一方、行政を中心に防災対策の委員を務めるなど、本県防災のスペシャリストとして活躍されている。



### パネリスト

古川 雅信  
岸上 祥子  
名山 優  
浅堀 裕

主任主事 (徳島県教育委員会 施設整備課) 第2陣  
養護教諭 (徳島市国府小学校) 第4陣  
教 頭 (徳島県立板野支援学校) 第9陣  
主幹教諭 (兵庫県立芦屋高等学校) 兵庫県震災・学校支援チーム



### 古川 雅信 主任主事

- ・現地の状況を目の当たりにして感じたのは、登下校中に地震に遭遇したら、建物の中ではなく、できるだけ広い場所へ逃げるのが最も安全であるということだ。
- ・現在の職務から、校内においても、通学路においても、各種・多様な環境整備が必要だと痛切に感じた。
- ・今回の活動を通して、防災研修を実施することの重要性を実感した。また、特に必要なことは、万が一に備えて多種多様な物資の準備であるということも学んだ。



### 岸上 祥子 養護教諭

- ・学校が再開され、子どもが喜んでいるとの声を多く聞いたので、一刻も早い学校再開の必要性を感じた。
- ・子どもの運動(ストレス解消)のために運動場の確保は重要だ。
- ・学校再開後、「健康観察表」が児童の状態を把握する上で大きな役割を果たした。「健康観察表」の準備は必須である。
- ・地震発生からある程度日数が経てば、頑張っている大人の「心のケア」が必要だと感じた。
- ・今回の活動を通して、「地震が起きたら何ができるか」を平時にしっかり考えておかなければならないと強く思った。



### 浅堀 裕 主幹教諭

- ・阪神・淡路大震災で最も困ったのが子どもの「心のケア」だった。1日も早い学校再開が強く望まれる。
- ・避難所運営をできるだけ早く学校運営から自治運営に移行することが学校再開の重要なポイントになる。
- ・震災への対応として必要なこと
  - ① 防災教育の推進 ② 地域と学校のコミュニケーションの向上 ③ 災害支援協定の締結
- ・学校再開支援について必要なこと
  - ① 学校の避難所マニュアル作成 ② 教職員による避難所開設訓練 ③ 学校再開の手順の確認 ④ 防災教育推進指導員の養成



### 名山 優 教頭

- ・支援内容として、大型のテント設営など時間がかかる作業をすることが、広安西小学校の先生方の負担減につながったと思う。
- ・中学年以上になると自制がきいているが、低学年では言動が攻撃的になる児童も幾人もみられた。低学年のストレスを解消する手立てが非常に大事だと感じた。
- ・避難所になった学校には、震災後、非常に多くの団体がボランティアとして入ってくる。このボランティアをコーディネートする担当者の必要性を強く感じた。各ボランティアに役割分担をすることそのものが、先生方の大きな負担になっていた。